

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-幸喜 穂乃	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。	本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。
到達目標	社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。	演習の最後に提示します。
	2	ソーシャルワークの目的と使命	以下同じです。
	3	ソーシャルワークの価値	
	4	ソーシャルワーカーの役割	
	5	自己覚知① ライフヒストリーを読み解く	
	6	自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する	
	7	自己覚知③ 他者理解	
8	自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値		
9	基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解		
10	基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション		
11	基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション		
12	基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感		
13	基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感		
14	基本的な面接技術③ ラポール形成		
15	基本的な面接技術④ ワーカーの心得		
16	演習のまとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。		
	学びの手立て	①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。	
	評価	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）	

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。	本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。
到達目標	社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。	演習の最後に提示します。
	2	ソーシャルワークの目的と使命	以下同じです。
	3	ソーシャルワークの価値	
	4	ソーシャルワーカーの役割	
	5	自己覚知① ライフヒストリーを読み解く	
	6	自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する	
	7	自己覚知③ 他者理解	
	8	自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値	
	9	基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解	
	10	基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション	
	11	基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション	
	12	基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感	
	13	基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感	
14	基本的な面接技術③ ラポール形成		
15	基本的な面接技術④ ワーカーの心得		
16	演習のまとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。		
	学びの手立て		
	①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。		
	評価		
	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。	本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。
到達目標	社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。	演習の最後に提示します。
	2	ソーシャルワークの目的と使命	以下同じです。
	3	ソーシャルワークの価値	
	4	ソーシャルワーカーの役割	
	5	自己覚知① ライフヒストリーを読み解く	
	6	自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する	
	7	自己覚知③ 他者理解	
	8	自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値	
	9	基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解	
	10	基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション	
	11	基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション	
	12	基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感	
	13	基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感	
14	基本的な面接技術③ ラポール形成		
15	基本的な面接技術④ ワーカーの心得		
16	演習のまとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。		
学びの手立て	①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動を楽しみましょう。		
評価	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹沢 昌子	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。	本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。
到達目標	社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。	演習の最後に提示します。
	2	ソーシャルワークの目的と使命	以下同じです。
	3	ソーシャルワークの価値	
	4	ソーシャルワーカーの役割	
	5	自己覚知① ライフヒストリーを読み解く	
	6	自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する	
	7	自己覚知③ 他者理解	
8	自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値		
9	基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解		
10	基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション		
11	基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション		
12	基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感		
13	基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感		
14	基本的な面接技術③ ラポール形成		
15	基本的な面接技術④ ワーカーの心得		
16	演習のまとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など	随時紹介します。	
	学びの手立て	①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。	
	評価	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）	

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

多様な専門職と協働してニーズを解決する等、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮良 あさの	2年	授業終了後に受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ。</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p>	<p>社会福祉の現場は実に多様です。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p>
到達目標	<p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	演習の最後に提示します
	2	ソーシャルワーカーの役割	以下同じです。
	3	社会福祉専門職の実践を理解する① 社会的排除	
	4	社会福祉専門職の実践を理解する② 虐待（高齢者）	
	5	社会福祉専門職の実践を理解する③ 虐待（障害児者）	
	6	社会福祉専門職の実践を理解する④ 家庭内暴力（DV、その他）	
	7	社会福祉専門職の実践を理解する⑤ ホームレス	
	8	社会福祉専門職の実践を理解する⑥ 地域包括ケア（高齢者、児童、その他）	
	9	社会福祉専門職の実践を理解する⑦ 地域福祉（社会福祉協議会）	
	10	社会福祉専門職の実践を理解する⑧ 地域福祉（NPO、自治会）	
	11	社会福祉専門職の実践を理解する⑨ 更生保護	
	12	社会福祉専門職の実践を理解する⑩ 権利擁護活動	
	13	社会福祉専門職の実践を理解する⑪ 低所得者	
14	社会福祉専門職の実践を理解する⑫ 国際社会福祉		
15	まとめ①		
16	まとめ②		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動を楽しみましょう。</p>		
評価	<p>課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

多様な専門職と協働してニーズを解決する等、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	授業終了後に受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ。</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p>	<p>社会福祉の現場は実に多様です。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p>
到達目標	<p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	演習の最後に提示します
	2	ソーシャルワーカーの役割	以下同じです。
	3	社会福祉専門職の実践を理解する① 社会的排除	
	4	社会福祉専門職の実践を理解する② 虐待（高齢者）	
	5	社会福祉専門職の実践を理解する③ 虐待（障害児者）	
	6	社会福祉専門職の実践を理解する④ 家庭内暴力（DV、その他）	
	7	社会福祉専門職の実践を理解する⑤ ホームレス	
	8	社会福祉専門職の実践を理解する⑥ 地域包括ケア（高齢者、児童、その他）	
	9	社会福祉専門職の実践を理解する⑦ 地域福祉（社会福祉協議会）	
	10	社会福祉専門職の実践を理解する⑧ 地域福祉（NPO、自治会）	
	11	社会福祉専門職の実践を理解する⑨ 更生保護	
	12	社会福祉専門職の実践を理解する⑩ 権利擁護活動	
	13	社会福祉専門職の実践を理解する⑪ 低所得者	
14	社会福祉専門職の実践を理解する⑫ 国際社会福祉		
15	まとめ①		
16	まとめ②		
テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。			
<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。</p>			
<p>評価</p> <p>課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

多様な専門職と協働してニーズを解決する等、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	授業終了後に受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ。</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p>	<p>社会福祉の現場は実に多様です。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p>
到達目標	<p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	演習の最後に提示します
	2	ソーシャルワーカーの役割	以下同じです。
	3	社会福祉専門職の実践を理解する① 社会的排除	
	4	社会福祉専門職の実践を理解する② 虐待（高齢者）	
	5	社会福祉専門職の実践を理解する③ 虐待（障害児者）	
	6	社会福祉専門職の実践を理解する④ 家庭内暴力（DV、その他）	
	7	社会福祉専門職の実践を理解する⑤ ホームレス	
	8	社会福祉専門職の実践を理解する⑥ 地域包括ケア（高齢者、児童、その他）	
	9	社会福祉専門職の実践を理解する⑦ 地域福祉（社会福祉協議会）	
	10	社会福祉専門職の実践を理解する⑧ 地域福祉（NPO、自治会）	
	11	社会福祉専門職の実践を理解する⑨ 更生保護	
	12	社会福祉専門職の実践を理解する⑩ 権利擁護活動	
	13	社会福祉専門職の実践を理解する⑪ 低所得者	
14	社会福祉専門職の実践を理解する⑫ 国際社会福祉		
15	まとめ①		
16	まとめ②		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動を楽しみましょう。</p>		
評価	<p>課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

多様な専門職と協働してニーズを解決する等、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹沢 昌子	2年	授業終了後に受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ。</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p>	<p>社会福祉の現場は実に多様です。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p>
到達目標	<p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	演習の最後に提示します
	2	ソーシャルワーカーの役割	以下同じです。
	3	社会福祉専門職の実践を理解する① 社会的排除	
	4	社会福祉専門職の実践を理解する② 虐待（高齢者）	
	5	社会福祉専門職の実践を理解する③ 虐待（障害児者）	
	6	社会福祉専門職の実践を理解する④ 家庭内暴力（DV、その他）	
	7	社会福祉専門職の実践を理解する⑤ ホームレス	
	8	社会福祉専門職の実践を理解する⑥ 地域包括ケア（高齢者、児童、その他）	
	9	社会福祉専門職の実践を理解する⑦ 地域福祉（社会福祉協議会）	
	10	社会福祉専門職の実践を理解する⑧ 地域福祉（NPO、自治会）	
	11	社会福祉専門職の実践を理解する⑨ 更生保護	
	12	社会福祉専門職の実践を理解する⑩ 権利擁護活動	
	13	社会福祉専門職の実践を理解する⑪ 低所得者	
14	社会福祉専門職の実践を理解する⑫ 国際社会福祉		
15	まとめ①		
16	まとめ②		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。</p>		
評価	<p>課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅲ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-幸喜 穂乃	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学ぶ。②相談援助演習ⅠⅡ、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深める。	本演習では、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めます。関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に、そして主体的に相談援助のプロセスを学びましょう。
到達目標	相談援助のプロセスを理解し説明できる。ソーシャルワーカーの役割について説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	演習の最後に提示します。
	2	相談援助の機能	以下同じです。
	3	相談援助の対象とニーズ	
	4	ニーズの発見①	
	5	ニーズの発見②	
	6	インテーク	
	7	アセスメント①	
8	アセスメント②		
9	プランニング		
10	支援の実際①		
11	支援の実際②		
12	モニタリング、効果測定①		
13	モニタリング、効果測定②		
14	終結、アフターケア①		
15	終結、アフターケア②		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など	随時紹介します。	
	学びの手立て	①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。	
	評価	課題（30％）、レポートの内容（30％）、プログラムへの主体的参加（30％）、授業態度（10％）	

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅲ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学ぶ。②相談援助演習ⅠⅡ、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深める。	本演習では、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めます。関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に、そして主体的に相談援助のプロセスを学びましょう。
到達目標	相談援助のプロセスを理解し説明できる。ソーシャルワーカーの役割について説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	演習の最後に提示します。
	2	相談援助の機能	以下同じです。
	3	相談援助の対象とニーズ	
	4	ニーズの発見①	
	5	ニーズの発見②	
	6	インテーク	
	7	アセスメント①	
8	アセスメント②		
9	プランニング		
10	支援の実際①		
11	支援の実際②		
12	モニタリング、効果測定①		
13	モニタリング、効果想定②		
14	終結、アフターケア①		
15	終結、アフターケア②		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など	随時紹介します。	
	学びの手立て	①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。	
	評価	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）	

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅲ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹藤 登	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学ぶ。②相談援助演習ⅠⅡ、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深める。	本演習では、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めます。関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に、そして主体的に相談援助のプロセスを学びましょう。
到達目標	相談援助のプロセスを理解し説明できる。ソーシャルワーカーの役割について説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	演習の最後に提示します。
	2	相談援助の機能	以下同じです。
	3	相談援助の対象とニーズ	
	4	ニーズの発見①	
	5	ニーズの発見②	
	6	インテーク	
	7	アセスメント①	
	8	アセスメント②	
	9	プランニング	
	10	支援の実際①	
	11	支援の実際②	
	12	モニタリング、効果測定①	
	13	モニタリング、効果想定②	
14	終結、アフターケア①		
15	終結、アフターケア②		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。		
学びの手立て	①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。		
評価	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅲ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学ぶ。②相談援助演習ⅠⅡ、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深める。	本演習では、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めます。関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に、そして主体的に相談援助のプロセスを学びましょう。
到達目標	相談援助のプロセスを理解し説明できる。ソーシャルワーカーの役割について説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	演習の最後に提示します。
	2	相談援助の機能	以下同じです。
	3	相談援助の対象とニーズ	
	4	ニーズの発見①	
	5	ニーズの発見②	
	6	インテーク	
	7	アセスメント①	
8	アセスメント②		
9	プランニング		
10	支援の実際①		
11	支援の実際②		
12	モニタリング、効果測定①		
13	モニタリング、効果測定②		
14	終結、アフターケア①		
15	終結、アフターケア②		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。		
	学びの手立て		
	①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動を楽しみましょう。		
	評価		
	課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	3年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。緊急時は専任教員の岩田が対応します。	

学びの準備	ねらい 相談援助演習ⅠⅡⅢで学んだことを踏まえ、また、相談援助実習で学習したことを活かして、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識や技術を実践的かつ理論的に学びます。	メッセージ 相談援助演習はⅠⅡⅢⅣを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習ⅠⅡⅢⅣと相談援助実習指導ⅠⅡⅢが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
	到達目標 相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明。地域資源	演習ふりかえり
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	演習ふりかえり
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	次週に向けて課題に取り組む
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	次週に向けて課題に取り組む
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	次週に向けて課題に取り組む
	6	プランニング②：地域福祉計画の策定	次週に向けて：事例を収集する
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	次週に向けて：検討結果をまとめる
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	次週に向けて：検討結果をまとめる
	9	評価：活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	次週に向けて課題に取り組む
	10	ネットワーク：事例を通して地域の社会資源のネットワークの手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	11	社会資源の活用・調整：事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	12	社会資源の開発：新たに社会資源を開発する方法について理解する	次週に向けて課題に取り組む
	13	ソーシャルアクション：事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点：相談援助実習時の課題について理解する	次週に向けて課題に取り組む
	15	前期まとめ	実習に向けての準備
	16	後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	次週に向けて課題に取り組む
	17	実習での学びをふりかえる①課題整理	次週に向けて課題に取り組む
	18	実習での学びをふりかえる②課題整理	次週に向けて課題に取り組む
	19	実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	演習ふりかえり
	20	実習での学びをふりかえる④個別発表(2)	演習ふりかえり
	21	実習での学びをふりかえる⑤個別発表(3)	演習ふりかえり
	22	実習での学びをふりかえる⑥個別発表(4)	演習ふりかえり
	23	実習での学びをふりかえる⑦個別発表(5)	演習ふりかえり
	24	実習での学びをふりかえる⑧個別発表(6)	演習ふりかえり
	25	実習での学びをふりかえる⑨個別発表(7)	演習ふりかえり
	26	ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	次週に向けて課題に取り組む
	27	スーパービジョンの意義、方法	次週に向けて課題に取り組む
	28	他の職種との連携・協働の意義	次週に向けて課題に取り組む
29	ソーシャルワーカーの価値・倫理①	自身の学びと成長をまとめる	
30	ソーシャルワーカーの価値・倫理②	自身の学びと成長をまとめる	
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 積極的にボランティアをして視野を広げましょう。 分析する力を身につけましょう。</p>
	<p>評価 講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 相談援助演習の集大成をしっかり行い、卒業後のキャリアにつなげられるようにする</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。緊急時は専任教員の岩田が対応します。	

学びの準備	ねらい 相談援助演習ⅠⅡⅢで学んだことを踏まえ、また、相談援助実習で学習したことを活かして、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識や技術を実践的かつ理論的に学びます。	メッセージ 相談援助演習はⅠⅡⅢⅣを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習ⅠⅡⅢⅣと相談援助実習指導ⅠⅡⅢが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
	到達目標 相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明。地域資源	演習ふりかえり
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	演習ふりかえり
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	次週に向けて課題に取り組む
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	次週に向けて課題に取り組む
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	次週に向けて課題に取り組む
	6	プランニング②：地域福祉計画の策定	次週に向けて：事例を収集する
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	次週に向けて：検討結果をまとめる
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	次週に向けて：検討結果をまとめる
	9	評価：活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	次週に向けて課題に取り組む
	10	ネットワーク：事例を通して地域の社会資源のネットワークの手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	11	社会資源の活用・調整：事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	12	社会資源の開発：新たに社会資源を開発する方法について理解する	次週に向けて課題に取り組む
	13	ソーシャルアクション：事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点：相談援助実習時の課題について理解する	次週に向けて課題に取り組む
	15	前期まとめ	実習に向けての準備
	16	後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	次週に向けて課題に取り組む
	17	実習での学びをふりかえる①課題整理	次週に向けて課題に取り組む
	18	実習での学びをふりかえる②課題整理	次週に向けて課題に取り組む
	19	実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	演習ふりかえり
	20	実習での学びをふりかえる④個別発表(2)	演習ふりかえり
	21	実習での学びをふりかえる⑤個別発表(3)	演習ふりかえり
	22	実習での学びをふりかえる⑥個別発表(4)	演習ふりかえり
	23	実習での学びをふりかえる⑦個別発表(5)	演習ふりかえり
	24	実習での学びをふりかえる⑧個別発表(6)	演習ふりかえり
	25	実習での学びをふりかえる⑨個別発表(7)	演習ふりかえり
	26	ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	次週に向けて課題に取り組む
	27	スーパービジョンの意義、方法	次週に向けて課題に取り組む
	28	他の職種との連携・協働の意義	次週に向けて課題に取り組む
29	ソーシャルワーカーの価値・倫理①	自身の学びと成長をまとめる	
30	ソーシャルワーカーの価値・倫理②	自身の学びと成長をまとめる	
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 積極的にボランティアをして視野を広げましょう。 分析する力を身につけましょう。</p>
	<p>評価 講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 相談援助演習の集大成をしっかり行い、卒業後のキャリアにつなげられるようにする</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹藤 登	3年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。緊急時は専任教員の岩田が対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	相談援助演習ⅠⅡⅢで学んだことを踏まえ、また、相談援助実習で学習したことを活かして、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識や技術を実践的かつ理論的に学びます。	相談援助演習はⅠⅡⅢⅣを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習ⅠⅡⅢⅣと相談援助実習指導ⅠⅡⅢが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
到達目標	相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明。地域資源	演習ふりかえり
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	演習ふりかえり
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	次週に向けて課題に取り組む
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	次週に向けて課題に取り組む
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	次週に向けて課題に取り組む
	6	プランニング②：地域福祉計画の策定	次週に向けて：事例を収集する
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	次週に向けて：検討結果をまとめる
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	次週に向けて：検討結果をまとめる
	9	評価：活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	次週に向けて課題に取り組む
	10	ネットワーク：事例を通して地域の社会資源のネットワークの手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	11	社会資源の活用・調整：事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	12	社会資源の開発：新たに社会資源を開発する方法について理解する	次週に向けて課題に取り組む
	13	ソーシャルアクション：事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点：相談援助実習時の課題について理解する	次週に向けて課題に取り組む
	15	前期まとめ	実習に向けての準備
	16	後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	次週に向けて課題に取り組む
	17	実習での学びをふりかえる①課題整理	次週に向けて課題に取り組む
	18	実習での学びをふりかえる②課題整理	次週に向けて課題に取り組む
	19	実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	演習ふりかえり
	20	実習での学びをふりかえる④個別発表(2)	演習ふりかえり
	21	実習での学びをふりかえる⑤個別発表(3)	演習ふりかえり
	22	実習での学びをふりかえる⑥個別発表(4)	演習ふりかえり
	23	実習での学びをふりかえる⑦個別発表(5)	演習ふりかえり
	24	実習での学びをふりかえる⑧個別発表(6)	演習ふりかえり
	25	実習での学びをふりかえる⑨個別発表(7)	演習ふりかえり
	26	ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	次週に向けて課題に取り組む
	27	スーパービジョンの意義、方法	次週に向けて課題に取り組む
	28	他の職種との連携・協働の意義	次週に向けて課題に取り組む
29	ソーシャルワーカーの価値・倫理①	自身の学びと成長をまとめる	
30	ソーシャルワーカーの価値・倫理②	自身の学びと成長をまとめる	
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 積極的にボランティアをして視野を広げましょう。 分析する力を身につけましょう。</p>
	<p>評価 講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 相談援助演習の集大成をしっかり行い、卒業後のキャリアにつなげられるようにする</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助演習Ⅳ	通年	火2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	3年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。緊急時は専任教員の岩田が対応します。	

学びの準備	ねらい 相談援助演習ⅠⅡⅢで学んだことを踏まえ、また、相談援助実習で学習したことを活かして、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識や技術を実践的かつ理論的に学びます。	メッセージ 相談援助演習はⅠⅡⅢⅣを通して将来の社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を習得することを目標にしています。特に、本科目はその集大成的な内容になっています。講義科目で学んだ理論と相談援助演習ⅠⅡⅢⅣと相談援助実習指導ⅠⅡⅢが連続していることを意識しつつ講義に参加してください。
	到達目標 相談援助に必要な実践力や考察力を習得することができる。 ジェネラリストソーシャルワークの特徴やアプローチが理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション：ゼミの概要説明。地域資源	演習ふりかえり
	2	アセスメント①：地域住民に対するアウトリーチと地域ニーズの把握	演習ふりかえり
	3	アセスメント②：地域アセスメントの方法	次週に向けて課題に取り組む
	4	アセスメント③：地域アセスメントのプロセス	次週に向けて課題に取り組む
	5	プランニング①：エンパワメント志向のプランニング～地域住民や当事者のストレングス	次週に向けて課題に取り組む
	6	プランニング②：地域福祉計画の策定	次週に向けて：事例を収集する
	7	活動・プログラムの実施①事例検討	次週に向けて：検討結果をまとめる
	8	活動・プログラムの実施②事例検討	次週に向けて：検討結果をまとめる
	9	評価：活動の評価をする上で地域住民および専門職の役割	次週に向けて課題に取り組む
	10	ネットワーク：事例を通して地域の社会資源のネットワークの手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	11	社会資源の活用・調整：事例を通して社会資源の活用・調整に関する手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	12	社会資源の開発：新たに社会資源を開発する方法について理解する	次週に向けて課題に取り組む
	13	ソーシャルアクション：事例を通してソーシャルアクションの意義や手法を理解する	次週に向けて課題に取り組む
	14	ミクロ・メゾ・マクロの視点：相談援助実習時の課題について理解する	次週に向けて課題に取り組む
	15	前期まとめ	実習に向けての準備
	16	後期オリエンテーション：演習の概要説明。実習のふりかえり	次週に向けて課題に取り組む
	17	実習での学びをふりかえる①課題整理	次週に向けて課題に取り組む
	18	実習での学びをふりかえる②課題整理	次週に向けて課題に取り組む
	19	実習での学びをふりかえる③個別発表(1)	演習ふりかえり
	20	実習での学びをふりかえる④個別発表(2)	演習ふりかえり
	21	実習での学びをふりかえる⑤個別発表(3)	演習ふりかえり
	22	実習での学びをふりかえる⑥個別発表(4)	演習ふりかえり
	23	実習での学びをふりかえる⑦個別発表(5)	演習ふりかえり
	24	実習での学びをふりかえる⑧個別発表(6)	演習ふりかえり
	25	実習での学びをふりかえる⑨個別発表(7)	演習ふりかえり
	26	ジェネラリストソーシャルワークの効果と課題	次週に向けて課題に取り組む
	27	スーパービジョンの意義、方法	次週に向けて課題に取り組む
	28	他の職種との連携・協働の意義	次週に向けて課題に取り組む
29	ソーシャルワーカーの価値・倫理①	自身の学びと成長をまとめる	
30	ソーシャルワーカーの価値・倫理②	自身の学びと成長をまとめる	
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に指定しているテキストはない。 参考文献は随時教員が資料を印刷し、配布する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 積極的にボランティアをして視野を広げましょう。 分析する力を身につけましょう。</p>
	<p>評価 講義への参加度 20% 予習を兼ねた宿題の提出状況 25% グループ研究発表会の準備および内容 25% 個別発表会の準備および内容 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 相談援助演習の集大成をしっかり行い、卒業後のキャリアにつなげられるようにする</p>

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーに実践活動を重視した教育を掲げている。本  
科目を理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅰ	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 純子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	相談援助実習では相談援助にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。そのため、本科目では本実習の事前学習：「現場体験学習」として現場に出向きその準備を行う。具体的には、「現場体験実習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者（高齢者・障がい者・児童）の理解に焦点を置く。	現場理解のために、授業関連だけではなく、ボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。
到達目標	授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者（高齢者・障がい者・児童）の理解が深まる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	施設の概要（高齢者・障がい者・児童）	
	3	利用者の特性理解（高齢者）	
	4	利用者の特性理解（障がい者）	
	5	利用者の特性理解（児童）	
	6	実習におけるコミュニケーション基礎	
	7	実習におけるコミュニケーションワーク①	
	8	実習におけるコミュニケーションワーク②	
	9	実習におけるコミュニケーションワーク③	
	10	実習におけるコミュニケーションワーク④	
	11	実習におけるコミュニケーションワーク⑤	
	12	相談援助職の倫理、コンプライアンス	
	13	相談援助職のストレスマネジメント	
14	まとめ		
15	評価		
16	実習直前指導、実習マナーの理解		
テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて授業時に提示する。			
<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、受け身ではなく積極的に参加すること。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守ること。一方、社会福祉士基礎科目については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」等は関連が深く、重要な科目である。</p>			
<p>評価</p> <p>授業の出席状況、演習への参加状況及び課題の評価等をもとに総合的に評価する。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習Ⅱ」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導Ⅱ、Ⅲ」が存在する。授業間の関連性を意識して受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして、最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となってほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーに実践活動を重視した教育を掲げている。本科目を理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名 相談援助実習指導 I	期別 前期	曜日・時限 火 6	単位 2
	担当者 保良 昌徳	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			各教員のオフィスアワー・メールアドレスを確認して下さい。	

学びの準備	ねらい *相談援助実習では相談援助にかかる知識と技術について具体的な実践的に理解し実践的な技術等を体得する。そのため、本科目では本実習の事前学習：「現場体験学習」として現場に出向きその準備を行う。具体的には、「現場体験学習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解に焦点を置く。	メッセージ 現場理解のために、授業関連だけではなく、ボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。
	到達目標 授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(初回) 授業の主旨・展開について</li> <li>2. 施設理解(4～5回) 高齢者施設・障がい者施設・児童福祉施設等</li> <li>3. 「現場体験学習」に向けてのオリエンテーション(1回) 「現場体験学習」の目的。「現場体験学習」ごとの学生同士の顔合わせ、「現場体験学習」前の事前訪問等。5～6月に実施予定。</li> <li>4. 利用者とのコミュニケーション(2～3回) 対高齢者・障がい者・児童等</li> <li>5. 社会福祉士の価値と倫理(2～3回) 「現場体験学習」前に踏まえること。利用者のプライバシー保護と個人情報等。</li> <li>6. 記録の仕方とその重要性(2～3回) 「現場体験学習」の記録</li> <li>7. 授業のまとめ(1回) 「現場体験学習」実施に向けて。</li> </ol> <p>※「現場体験学習」は、原則同一施設で目安として3～7日間ほど(24時間以上)、行うこととする。 原則8～9月に実施することとする。 ※「現場体験学習」の振り返りは、「相談援助演習Ⅱ」にて行う。「現場体験学習の活動記録」は、その初回授業時に提出すること。それまでは各自できちんと保管すること。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて授業時に提示することとする。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、受け身ではなく積極的に参加すること。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守る。一方、社会福祉士基礎科目については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」等は重要である。</p>
<p>評価</p> <p>授業の出欠、演習への参加状況及び課題の評価等を元に総合的に評価する。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習Ⅱ」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーに実践活動を重視した教育を掲げている。本科目を理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅰ	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	各教員のオフィスアワー・メールアドレスを確認して下さい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>*相談援助実習では相談援助にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。そのため、本科目では本実習の事前学習：「現場体験学習」として現場に出向きその準備を行う。具体的には、「現場体験学習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解に焦点を置く。</p>	<p>現場理解のために、授業関連だけではなく、ボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。</p>
到達目標	授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(初回) 授業の主旨・展開について</li> <li>2. 施設理解(4～5回) 高齢者施設・障がい者施設・児童福祉施設等</li> <li>3. 「現場体験学習」に向けてのオリエンテーション(1回) 「現場体験学習」の目的。「現場体験学習」ごとの学生同士の顔合わせ、「現場体験学習」前の事前訪問等。5～6月に実施予定。</li> <li>4. 利用者とのコミュニケーション(2～3回) 対高齢者・障がい者・児童等</li> <li>5. 社会福祉士の価値と倫理(2～3回) 「現場体験学習」前に踏まえること。利用者のプライバシー保護と個人情報等。</li> <li>6. 記録の仕方とその重要性(2～3回) 「現場体験学習」の記録</li> <li>7. 授業のまとめ(1回) 「現場体験学習」実施に向けて。</li> </ol> <p>※「現場体験学習」は、原則同一施設で目安として3～7日間ほど(24時間以上)、行うこととする。 原則8～9月に実施することとする。 ※「現場体験学習」の振り返りは、「相談援助演習Ⅱ」にて行う。「現場体験学習の活動記録」は、その初回授業時に提出すること。それまでは各自できちんと保管すること。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて授業時に提示することとする。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、受け身ではなく積極的に参加すること。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守る。一方、社会福祉士基礎科目については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」等は重要である。</p>
評価	<p>授業の出欠、演習への参加状況及び課題の評価等を元に総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習Ⅱ」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーに実践活動を重視した教育を掲げている。本科目を理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名 相談援助実習指導Ⅰ	期別 前期	曜日・時限 金2	単位 2
	担当者 安次富 郁哉	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			各教員のオフィスアワー・メールアドレスを確認して下さい。	

学びの準備	ねらい *相談援助実習では相談援助にかかる知識と技術について具体的な実践的に理解し実践的な技術等を体得する。そのため、本科目では本実習の事前学習：「現場体験学習」として現場に出向きその準備を行う。具体的には、「現場体験学習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解に焦点を置く。	メッセージ 現場理解のために、授業関連だけではなく、ボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。
	到達目標 授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(初回) 授業の主旨・展開について</li> <li>2. 施設理解(4～5回) 高齢者施設・障がい者施設・児童福祉施設等</li> <li>3. 「現場体験学習」に向けてのオリエンテーション(1回) 「現場体験学習」の目的。「現場体験学習」ごとの学生同士の顔合わせ、「現場体験学習」前の事前訪問等。5～6月に実施予定。</li> <li>4. 利用者とのコミュニケーション(2～3回) 対高齢者・障がい者・児童等</li> <li>5. 社会福祉士の価値と倫理(2～3回) 「現場体験学習」前に踏まえること。利用者のプライバシー保護と個人情報等。</li> <li>6. 記録の仕方とその重要性(2～3回) 「現場体験学習」の記録</li> <li>7. 授業のまとめ(1回) 「現場体験学習」実施に向けて。</li> </ol> <p>※「現場体験学習」は、原則同一施設で目安として3～7日間ほど(24時間以上)、行うこととする。 原則8～9月に実施することとする。 ※「現場体験学習」の振り返りは、「相談援助演習Ⅱ」にて行う。「現場体験学習の活動記録」は、その初回授業時に提出すること。それまでは各自できちんと保管すること。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて授業時に提示することとする。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、受け身ではなく積極的に参加すること。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守ること。一方、社会福祉士基礎科目については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」等は重要である。</p>
<p>評価</p> <p>授業の出欠、演習への参加状況及び課題の評価等を元に総合的に評価する。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習Ⅱ」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習では社会福祉支援について実践的に学ぶための事前学習を行う。社会福祉専門職としての基本的知識と技術を習得する。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	授業の最後に受付けます。	

学びの準備	ねらい 相談援助実習に向けて具体的に準備を進めます。	メッセージ 相談援助実習に向けてたくさんの準備をします。意識を高く持って臨んでください。
	到達目標 相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習施設/機関の理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法など具体的な技術を理解することができる。	

学びの準備	到達目標 相談援助実習に向けて、昨今の社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習施設/機関の理解を深めることができる。 実習計画を作成し、事前訪問の準備をすることができる。 個別支援計画の作成方法など具体的な技術を理解することができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション①演習概要説明
	2	オリエンテーション②演習体制づくり、課題確認
	3	障害者福祉政策の動向①国連を中心とする国際社会の動向
	4	障害者福祉政策の動向②国内および県内の動向
	5	障害者福祉サービス①法制度の理解
	6	障害者福祉サービス②担い手の理解
	7	第2回実習オリエンテーション
	8	配属施設の理解①グループ発表(1)
	9	配属施設の理解②グループ発表(2)
	10	配属施設の理解③グループ発表(3)、実習計画書の書き方を理解する
	11	配属施設の理解④グループ発表(4)、実習計画書に関する個別面談
	12	実習日誌の書き方①
	13	第3回実習オリエンテーション 実習日誌の書き方②
	14	個別支援計画作成方法①
	15	個別支援計画作成方法②
16	まとめ	
		時間外学習の内容

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 指定のテキストはありません。随時資料を配布します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧にいきましょう。 積極的にボランティアを行い、視野を広げましょう。 積極的に関連文献を読みましょう。
-------	---

学びの実践	評価 グループ発表30%、個別発表30%、個別支援計画作成10%、ゼミへの主体的参加30%
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 社会福祉専門職（ソーシャルワーカー）を養成するための科目である。実践的演習として重要である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	3年	担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本相談援助実習指導のねらいは、①配属実習を通して、専門的な知識・技術・関連知識の理解を深めること②専門従事者としての倫理観等の形成を目指す③多職種連携について学ぶことである。	単に、社会福祉士国家試験の受験資格を取得するという気持ちで受講するのではなく、本科目のねらいを十分に熟知すること。

到達目標	到達目標は①福祉専門従事者としての専門知識、技術を習得すること②福祉専門従事者としての倫理観を身につけること③多職種連携のあり方を理解することである。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・受講生登録確認	
	2	相談援助実習までの流れ 日本社会福祉士会倫理綱領	倫理綱領熟読
	3	日本社会福祉士会倫理綱領	倫理綱領熟読
	4	バイスティックの7原則説明	バイスティック7原則熟読・暗記
	5	相談援助実習オリエンテーション（合同）	バイスティック7原則熟読・暗記
	6	日本社会福祉士会倫理綱領及び医療ソーシャルワーカー倫理綱領	医療ソーシャルワーカー倫理綱領
	7	実習達成目標について	実習達成目標を考える
	8	現4年生からの配属先別アドバイス（4年生と合同）	実習に対する心配事など考える
	9	相談援助実習オリエンテーションⅢ（ゼミ毎）	
	10	接遇（社会人招聘：接遇指導）	接遇で大事なことは
	11	相談援助実習配属先について事前学習① グループ学習	配属先情報の入手
	12	相談援助実習配属先について事前学習② グループ学習	
	13	相談援助実習配属先について事前学習③ グループ学習	
14	実習日誌の書き方・注意点など①	他大学の日誌記述要項を調べる	
15	実習日誌の書き方・注意点など②		
16	実習日誌の書き方・注意点など③ 前期振り返り		
	テキスト・参考文献・資料など 特にテキストは指定しない。資料については随時配付する。		
	学びの手立て ソーシャルワーカーの倫理綱領をしっかりと熟読し、理解すること。バイスティックの7原則を覚え、しっかりと理解すること。		
	評価 評価については、出席率、実習報告書の提出、実習報告の内容、ゼミ内での発言回数などを重視する。また、相談援助実習に関しては、実習配属先の指導者の評価を勘案する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 常に福祉に関わる従事者としての倫理観、人格等の形成をこころがけることが必要である。関連科目としては、相談援助の理論と方法などがある。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本科目では社会福祉支援について実践的に学ぶための事前学習を行う。社会福祉専門職としての基本的知識と技術を習得する。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	3年	下記メール、及び講義前に受け付けます。 sayoko-tomo@nirai.ne.jp	

学びの準備	ねらい 相談援助実習に向けて具体的に準備を進めます。	メッセージ 相談援助実習に向けての準備が中心です。現場実習で期待と不安が交錯しているでしょう。不安を払拭するためにも、ゼミ仲間と共に協力し、意識を高くもって積極的に臨んでください。
	到達目標 相談援助実習に向けて、関連する社会福祉政策や法制度の動向を理解することができる。 実習配属先等に関する基本的な理解と、配属先で必要とされる相談援助に係る知識と技術を理解することができる。 実習計画書を作成し、事前訪問の準備をすることができる。	

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
		時間外学習の内容
	1	オリエンテーション
	2	相談援助実習の意義と位置づけ
	3	社会政策、法制度の動向と社会福祉士倫理綱領理解
	4	実習計画書・実習日誌概説
	5	実習計画書作成：実習目標達成等理解
	6	実習日誌作成方法：実習日誌作成意義等理解
	7	実習オリエンテーション②
	8	実習配属先理解①
	9	実習配属先理解②
	10	実習配属先理解③
	11	実習配属先理解④
	12	実習計画書・実習日誌等再確認
	13	実習オリエンテーション③
	14	実習配属先事前訪問準備
	15	実習の心得・実習目標等再確認
	16	まとめ
	テキスト・参考文献・資料など 特になし。 必要に応じ資料配布、文献紹介を行う	
	学びの手立て 実習に向けた準備をひとつひとつ丁寧に行いましょう。 関連する法制度についてはよく調べておきましょう。 積極的にボランティアを行い、視野を広げましょう。	
	評価 出席・受講態度状況30%、実習計画書状況20%、課題提出状況20%、発表状況30%等などから総合的に判断する	

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助実習、相談援助実習指導Ⅲ、相談援助演習Ⅳにつなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

※社会福祉関連科目で学んだ知識や技術についてまとめ、配属実習に向けて準備学習に取り組む

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	3年	1. クラスで受け付ける。 2. オフィスアワーでも受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>相談援助を行う専門家としての知識・技術・素養を深める</li> <li>配属実習に向けての事前学習を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>受講生は、自分の配属先についての情報収集に努めること</li> <li>受講生は、現場の専門職としての自覚を常に持ち、自分を磨くこと</li> </ol>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>現場で必要な、知識・技術・素養を身につけること</li> <li>配属先について、十分に理解すること</li> <li>現場での責任ある行動がとれるよう自分を高めること</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：前期講義の趣旨、心構え等について	
	2	知識の整理：演習・関連科目で学んだ内容について1	レポート提出1
	3	同上2	
	4	同上3、用語の整理	
	5	合同オリエンテーション	
	6	配属先の確認と事前学習の開始	
	7	配属先について（合同学習）1	レポート提出2
8	同上2		
9	実習内容について、実習課題の立て方等について		
10	実習課題について	レポート提出3	
11	事前訪問計画・注意点等について		
12	前年度実習生との交流会		
13	事前訪問について	レポート提出4	
14	日誌の書き方、その他の注意事項の確認		
15	まとめ、前期学習の成果について	レポート提出5	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
<ol style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて資料を配付する</li> <li>必要に応じて参考文献を指示する</li> </ol>			
学びの手立て			
<ol style="list-style-type: none"> <li>専門職への自覚と社会人としての責任ある行動について考えること</li> <li>常に現場に関心を持ち、可能な限りボランティア活動等に参加すること</li> </ol>			
評価			
<ol style="list-style-type: none"> <li>三分之一以上の欠席者は不可とする</li> <li>本科目の成績が「不可」であった者の配属実習は行わない</li> <li>レポートの提出・ないようを成績の70%とする</li> <li>ゼミでの活動状況・積極性（発言など）の内容を評価の30%とする</li> </ol>			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ※受講生は後期開講の相談援助実習Ⅲを登録履修すること
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村 小夜子	3年	下記メール、もしくは講義前に受けつけます sayoko-tomo@nirai.ne.jp	

学びの準備	ねらい 相談援助実習で経験したことを深め、さらに相談援助の可能性や課題を考えていきます	メッセージ ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そしてソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう
	到達目標 ゼミ生とディスカッションを重ねてソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。 実習で経験し分析考察したことを、報告書として記述することができる。 上記の内容を教室内外での報告会を通して、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	相談援助実習報告会の準備①	
	3	実習振り返り①（個別）	
	4	実習振り返り②（個別）	
	5	実習振り返り③（個別）	
	6	実習成果の課題と共有①（グループ）	
	7	実習成果の課題と共有②（グループ）	
	8	実習報告書作成要領等概説	
	9	実習報告書の作成：個別取り組み	
	10	実習報告書の作成：個別取り組み	
	11	実習報告書の作成：個別取り組み	
	12	実習報告会に向けての準備②	
	13	実習報告会①	
	14	実習報告会②	
15	実習報告会③		
16	振り返り・まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて配布します		
	学びの手立て 本科目は、相談援助実習の事後学習として位置づけられています。専門職としての倫理観、知識、技術などを身につけるとはどういうことか、常に自覚しましょう。他のゼミ生の実習経験も共有しながらともに学び、高め合っていきましょう。		
	評価 出席・受講態度状況30%、実習報告書の内容・提出状況30%、発表等役割り遂行状況20%、課題提出状況20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の相談援助演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる
-------	---

※ポリシーとの関連性

※前期クラス及び配属実習の成果を基に、相談援助者としての専門性を育てる。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良 昌徳	3年	1. クラスの中で受け付ける 2. オフィスアワーでも受け付ける	

学びの準備	ねらい ※現場での実習の成果と、これまで学んだ知識・技術・考え方を統合し、自分のものとする。	メッセージ 1. 受講生は、常意実習日誌や実習先での資料を持参し、チェックを受けること。 2. クラスで指示された資料・レポート等については事前準備を怠らないこと
	到達目標 1. 相談援助に関する知識・技術・考え方をまとめる 2. 実習報告書を作成する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション：後期クラスの概要など
	2	実習指導、配属実習の進捗状況の報告1
	3	同上2 レポート「配属実習の状況と現場で見た課題など」
	4	用語の整理（合同）1
	5	同上2
	6	週間報告会・実習指導 レポート「配属先のまとめ」
	7	実習報告会（合同ゼミ）
	8	用語のまとめ（共同作業）
学びの実践	9	レポート「用語のまとめ」
	10	配属実習のまとめ1
	11	同上2
	12	実習報告会 レポート「実習報告」
	13	同上2
	14	実習報告書の作成
	15	まとめ、一年間の反省等
	16	
テキスト・参考文献・資料など 1. 必要に応じて資料等を配付する		
学びの手立て 1. 常に問題意識を持ち、専門職としてのアイデンティティの自覚に努めること 2. 専門職として必要な知識や技術、考え方を常に確認すること		
評価 1. 三分一以上の欠席者は不可とする 2. レポートの提出状況・内容を評価の70%とする。 3. ゼミへの参加態度・内容を評価の30%とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

社会福祉専門職に求められる高い知識と経験を演習メンバーと共に培うことができる。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	演習の最後に受付けます。	

学びの準備	ねらい 相談援助実習で経験したことを深め、さらに相談援助の可能性や課題を考えていきます。	メッセージ ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワーカーの働きにはどのような意義があるのか丁寧に考えていきましょう。そして、ソーシャルワークの今後の展望を議論しましょう。
	到達目標 ゼミ生とディスカッションを重ねてソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。教室内外での報告会を通して、経験し分析考察したことを発表するスキルを身につけることができる。	

学びの準備	到達目標 ゼミ生とディスカッションを重ねてソーシャルワークの可能性や課題を深めることができる。教室内外での報告会を通して、経験し分析考察したことを発表するスキルを身につけることができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	相談援助実習報告会の準備	
	3	個別面談①	
	4	個別面談②	
	5	個別面談③	
	6	相談援助実習報告会①	
	7	相談援助実習報告会②	
	8	相談援助実習報告会③	
	9	相談援助実習報告会④	
	10	相談援助実習指導者の講演	
	11	実習先訪問/相談援助実習報告会	
	12	相談援助実習報告会⑤	
	13	報告書作成①	
	14	報告書作成②	
	15	実習指導者との交流会	
16	まとめ		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 指定のテキストは特にありません。
-------	------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 本演習は相談援助実習の事後学習として位置付けることができます。実習後も積極的に施設を訪問したり文献を通して分析をしましょう。
-------	--

学びの実践	評価 実習報告内容① 25%、実習報告内容② 25%、レポート30%、ゼミへの主体的参加20%
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 相談援助演習Ⅳ、その他関連科目の理解につなげる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会福祉専門職（ソーシャルワーカー）を養成するための科目である。実践的演習として重要である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助実習指導Ⅲ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富 郁哉	3年	担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本相談援助実習指導のねらいは、①配属実習を通して、専門的な知識・技術・関連知識の理解を深めること②専門従事者としての倫理観等の形成を目指す③多職種連携について学ぶことである。	単に、社会福祉士国家試験の受験資格を取得するという気持ちで受講するのではなく、本科目のねらいを十分に熟知すること。
到達目標	到達目標は①福祉専門従事者としての専門知識、技術を習得すること②福祉専門従事者としての倫理観を身につけること③多職種連携のあり方を理解することである。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習配属先への礼状要領 実習振り返り①	
	2	実習振り返り①	
	3	実習振り返り②	
	4	実習振り返り③	
	5	実習報告書作成要項説明及び形式	
	6	実習報告書各自で取り組む①	
	7	実習報告書各自で取り組む②	
8	実習報告書印刷①		
9	実習報告書印刷②		
10	実習報告会（ゼミ内）①	報告会準備 パワーポイント	
11	実習報告会（ゼミ内）②	報告会準備 パワーポイント	
12	実習報告会（ゼミ内）③	報告会準備 パワーポイント	
13	実習報告会（ゼミ内）④	報告会準備 パワーポイント	
14	予備日①		
15	予備日②		
16	振り返り		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特にテキストは指定しない。資料については随時配付する。		
	学びの手立て ソーシャルワーカーの倫理綱領をしっかりと熟読し、理解すること。バイスティックの7原則を覚え、しっかりと理解すること。		
	評価 評価については、出席率、実習報告書の提出、実習報告の内容、ゼミ内での発言回数などを重視する。また、相談援助実習に関しては、実習配属先の指導者の評価を勘案する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 常に福祉に関わる従事者としての倫理観、人格等の形成をこころがけることが必要である。関連科目としては、相談援助の理論と方法などがある。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げている。  
本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけている。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 相談援助の理論と方法Ⅱ	期別 前期	曜日・時限 木3	単位 2
	担当者 知名孝(11)、砂川亜紀美(3)、比嘉香織(2)	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 本科目では相談援助における人と環境との交互作用に関する理論や相談援助の対象、さまざまな実践モデルについて理解する。さらに、相談援助の過程とそれに関係する知識と技術、相談援助の実際について学ぶ。	メッセージ 将来、社会福祉専門職を目指す皆さんにとって、本科目は基幹となる科目である。社会福祉にかかる専門的知識等の習得をはじめ、自らの将来の仕事イメージしながら受講してほしい。
	到達目標 本科目を受講することで、社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)の仕事が理解できるようになる。本科目では、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論や相談援助(ソーシャルワーク)の対象、そのプロセス及びさまざまな実践モデルとそのアプローチについて理解できる。具体的には、ケースマネジメント、アウトリーチ、記録及び事例研究の技術等を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	
	2	人と環境の交互作用① I：第3章	※各授業の予習・復習をすること
	3	人と環境の交互作用② I：第3章	
	4	相談援助の対象 II：第1章	※期間中に小課題を2つ課します。
	5	ケースマネジメント II：第2章	締切を守り提出して下さい。
	6	アウトリーチ① I：第7章	詳しくは、初回オリ時に説明する。
	7	アウトリーチ② I：第7章	
	8	記録の技術① I：13章	
	9	記録の技術② I：13章	
	10	個人情報の保護の意義と留意点① II：第11章	
	11	個人情報の保護の意義と留意点② II：第11章	
	12	相談援助における情報通信技術(IT)の活用① II：12章	
	13	相談援助における情報通信技術(IT)の活用② II：12章	
	14	事例研究① II：13章	
	15	事例研究② II：13章	
16	まとめ		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 1. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 2. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 3. その他、必要に応じて授業時に示すこととする。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、授業は受け身ではなく、積極的に参加すること。また、課題についてしっかりと取り組み、提出期限はちゃんと守ること。一方、社会福祉士の関連科目(基礎科目)については関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に併行して受講する「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」等は重要である。
-------	--

学びの実践	評価 1) 出席字数が3分2に満たないものは「不可」、2) 講義初日に配布する資料に授業外課題の内容と提出日時が提示されるのでその提出、3) 講義の中で行う課題・グループワークなどの提出。4) 学期末テストで評価する。 ※ 2)と3)に関しては、課題ごとのポイントを設定し、4)と合わせての合計が100点となるように設定する。60点以下を不可とする。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目の発展的科目には「相談援助の理論と方法Ⅱ～Ⅳ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。その他、併行して「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」等を受講し、さらに本科目受講後には「相談援助実習指導」等で学びの継続を行うこと。そして最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げています。本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけています。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の理論と方法Ⅲ	後期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 和徳	2年	k-ishikawa@super-workers.com	

学びの準備	ねらい クライアント・システムに対して、その全体像を適切に把握し、個別の状況に応じた「根拠に基づく実践」を行うための、ソーシャルワークの基礎理論および実践モデル・アプローチを学びます。	メッセージ 福祉課題を抱えた方からの相談に応じ、必要に応じたサービス利用の支援方法、関係する様々な専門職や事業者、ボランティア等との連携方法、地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成方法などソーシャルワーカーとしての役割を学んでいきましょう。
	到達目標 ①様々な生活上の問題を人と環境との相互作用の中で生じる事象として考察することができる。 ②相談援助の対象となるクライアント・システムについて説明できる。 ③地域生活の維持を可能にする社会資源の活用・調整・開発、ネットワークングについて説明できる。 ④様々な実践モデルやアプローチの特徴について説明できる。 ⑤相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 ⑥相談援助の事例を通して、総合的かつ包括的な相談援助の実践方法について考察することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業の目的・ねらい・概要・到達目標を説明	※全期間:各授業の復習を行うこと
	2	社会福祉援助活動の概念と定義、相談援助における対象の理解	授業ごとに課される課題に取り組む
	3	相談援助の対象をどうとらえるか	
	4	グループを活用した相談援助、グループワークの意義、展開過程	
	5	グループワーク演習	
	6	コーディネーション・ネットワークの目的と意義、その方法と技術・留意点	
	7	相談援助における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的	
	8	三つの実践モデル（治療・生活・ストレングス）	
	9	様々なアプローチⅠ（心理社会的・機能的・問題解決）	
	10	様々なアプローチⅡ（課題中心・危機介入・行動変容）	
	11	様々なアプローチⅢ（エンパワメント・ナラティブ・解決志向・実存主義）	
	12	スーパービジョンの概要、機能、形態	
	13	スーパービジョンの方法、必要なスキル、スーパービジョン演習	
	14	コンサルテーション、ケースカンファレンスの意義と目的、模擬カンファレンス	
15	ソーシャルワークの基本的な視点と知識		
16	後期の振り返りと評価試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など 1. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 2. その他、必要に応じて授業時に示すこととします。
----	--

学びの手立て	本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業にしたいと考えています。授業は受け身ではなく、積極的に参加してください。各授業の振り返りを行い、分からなかったことは質問をしてください。「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」は関連科目として、理解を深めて欲しいと思っています。
--------	--

評価	授業の出欠、ワークへの参加状況及び課題に対するレポート等により総合的に評価します。レポートは課題の理解度を元に、具体的なイメージ、私見の記載などを期待します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、社会福祉士受験資格のための必要科目(相談援助の基盤と専門職、相談援助演習、現代社会と福祉、地域福祉の理論と方法等)があげられるが、本科目受講後には「相談援助実習指導」等で学びの継続を行ってください。そして最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となってもらいたいと思います。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げている。  
本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけている

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	相談援助の理論と方法Ⅳ	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名孝(2)、社会人講師(14)	2年	takashic@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、相談援助における人と環境との相互作用に関する理論や相談援助の対象、さまざまな実践モデルについて理解する。さらに、相談援助の過程とそれに関係する知識と技術、相談援助の実践について学ぶ。</p>	<p>将来、社会福祉専門職(以下、SWr)を目指す皆さんにとって、「相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅳ」は基幹となる科目である。特に本科目(Ⅳ)はコーディネーターを専任比嘉が務め、複数の社会人特別講師(SWr)を招聘した授業計画となっている。「相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅲ」を踏まえて、社会福祉の専門的知識等の習得し、自らの将来の仕事をイメージしながら受講してほしい。</p>
到達目標	<p>本科目を受講することで、SWrの仕事が理解できるようになる。最終的には、相談援助(ソーシャルワーク)の定義、構造と機能、そのプロセス及びさまざまな実践モデルとそのアプローチについて理解できる。具体的には各分野(障害児者(発達障がい含む)の生活・就労支援、病院における患者支援、地域における子育て支援等)におけるSWrの役割、アウトリーチ、面接技術、記録の技術、ケースマネジメント、スーパービジョン・コンサルテーションの技術等を身につけることができる</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 就労支援とソーシャルワーク(3回)</li> <li>3. 発達障がい児者のソーシャルワーク(3回)</li> <li>4. 成年後見制度における社会福祉士の役割(3回)</li> <li>5. 病院における社会福祉士の役割(3回)</li> <li>6. 社会的養護とソーシャルワーク(2回)</li> <li>7. まとめ</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。</li> <li>2. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。</li> <li>3. その他、必要に応じて授業時に示すこととする。</li> </ol>
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、授業は受け身ではなく、積極的に参加すること。また、各教員の課す課題についてしっかりと取り組むこと。課題提出期限はちゃんと守ること。一方、社会福祉士の基礎科目については関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に事前の「相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅲ」、併行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」「相談援助演習Ⅱ・Ⅲ」等は重要である。</p>
	<p>評価</p> <p>授業の出欠、受講態度(ワークへの参加等)及び各担当者の与える諸課題等の評価を元に総合的に評価する。成績の内訳は、授業の出欠・受講態度が10%、各担当者の課す小課題が30%、最終テスト(課題)で60%の割合で評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、社会福祉士受験資格のための必要科目(相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ、相談援助演習Ⅰ～Ⅳ、現代社会と福祉Ⅰ・Ⅱ、地域福祉の理論と方法Ⅰ・Ⅱ等)があげられるが、本科目受講後には「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」等で学びの継続を行うこと。そして最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。</p>
-------	--